

第 38 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 24 年 12 月 27 日(木) 午前 10 : 30 ~ 11 : 35
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 10 名
- 出席委員 9 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、桑田政美、須貝昭子、高谷和彦、
中 宏、中村 保、牧野直子
- 以上 7 名
- 放送事業者側出席氏名 岡田 堅治 (取締役)
大平麻由美 (編成課長)
永田 純子 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 まちのラジオ (第 3 週「民謡サークル・なんでもどっこい!」)
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

おはようございます。今回は「まちのラジオ」という番組を聴いていただきました。特徴は、箕面の主な活動団体のみなさんに、週替りで自分たちの手で独自で60分の番組を作っていただきます。タッキーとしては技術のお手伝いをしているのですが、番組の企画・構成は全て市民団体のみなさんがご自身で自分たちのカラーで作ってあげてくださっています。今回はその中で『民謡サークルどっこい』が担当している第3週です。『民謡サークルどっこい』は、東生涯学習センターなどで民謡を楽しんでいらっしゃるのですが、なかなか民謡をたっぷりお届けする時間というのはないので、ここで特徴的に番組が作れたらな、ということをお願いしています。生演奏していただいたり、コーナーなども独自で考えてくださって、ご自分たちのネットワークで番組に色を付けていただいています。試聴いただいた回は、どっこいのみなさんが関わられている「西小サタデースクール」という、土曜日に西小学校で子どもたちと一緒に活動するプログラムのようなものを事前取材され、盛り込んだ放送となりました。

(2) 審議

委員長：ありがとうございます。それでは委員のみなさんからご意見をいただきたいと思います。

委員：民謡サークルどっこい之メンバーのお人柄も出ていて、後素人っぽさというのがどうしても抜け切れないところはあるのですが、それも含めて「まちのラジオ」っぽい雰囲気なのかな、という感じはしました。あと、構成がかなり大変なんだろうなあ、というのが番組を聴いても伝わってくるものがありました。「今回はこのかたを紹介する」というのを、もうちょっと深めても良かったかもというのは思いました。

委員：実はこの番組は、文化振興事業団も第4週を担当していて、すごく愛着

のある番組です。けっこう楽しませていただいているのですが、私どものことはさておき、先程ご説明にもありましたとおり、企画意図とするところにはすごくあてはまった番組ですし、出ていただいているどっこいさんもすごくマッチングしているんじゃないかな、と思っています。生演奏もいいですね。「まちのラジオ」は、毎週違う特色が出ていて、良いなあ、と思いました。どっこいさんは今年 15 周年の公演を済まされたところなのですが、何せチームワークがすごく良いということは設立した時から感じていて、すぐ何かあれば行動に移されるグループなので、東北の支援にも行かれましたし、海外公演もされました。

委員：「まちのラジオ」にとってはこのグループはふさわしいグループだと思いますし、お仲間がすごく仲が良いので、そのお仲間のネットワークも広げてこれからもいろんな話題を提供していただけたら、今後も良い番組になるのでは、と思いました。以上です。

委員：中身は興味深く聴きました。企画も構成もご本人たちだということなので、なかなかのものだな、と。生演奏できるというのは、相当な自信ですよ。全体的には、おっちゃんおばちゃんの井戸端会議みたいなところがあって、聞きやすいことは聞きやすく、コミュニティという面では番組の意図としては良いのでは。あと、ナレーションのときのバックの音楽も全部自分で企画されるのですか？

事務局：「まちのラジオ」統一のテーマ曲以外は、全てご自分たちで選んでいます。

委員：番組中に唱歌の大切さを突いているのは、日本の音楽全体を見ているのだな、と思いました。あと、西小サタデースクールに移る前にナレーションがあって、そのバックに流れていた、三味線とギターのコラボは誰が考えているのかなあ、と。ブルースなので、かなり凝っている。分かっているかたがされているのかな、というイメージで聴いていましたが…全体としてはかなり面白かったのでは、と思います。以上です。

委員：まず番組の企画意図。素晴らしい意図ですよ。というよりも、ある意味コミュニティ FM のすべての番組に共通することだろうな、と思いま

す。その中で取り分け「まちのラジオ」はどうなのかな、と考えてみたのですが、ひとつは今回の番組で、大船渡に行かれて、現地事情の紹介もしていただいたのですが、やっぱり公共の電波で枕投げの話は不謹慎だな、と。まだまだ復興がされてない中で、「修学旅行ちやうやろ」と。まずそれが聴いていて嫌でした。あと、先程もあったように、井戸端会議的で、1時間の構成というのは、アマチュアにはしんどいのではないかと、思いました。ほかのラインナップを聴いていないので、比較はしにくいのですが、この番組だけに関しては30分ぐらいでもいいのではないかと、思いました。それからもうひとつ。技術的なことですが、インタビューのところ、子どもがしゃべったときにガッと声が上がってびっくりした。そこでボリュームを絞ると、他の部分が声が小さくなってしまう。そこは局でチェックができないかな、ということです。以上です。

委員長：スタッフがいちばん気をつけてもらいたいのは、どこまでを自由に奔放にやるのか。その素人っぽい良さを出すのは良いのですが、それを出しすぎると逆に引いてしまいマイナス面がグッと出てしまう。そこの調節がものすごく大事で難しいと思いました。それをするには、上手にコントロールしながら調整していく技術、というのが最終的に求められるのではないかと、思いました。ということは、FM自体の制作技術が問われる番組かな、と私なりに考えました。

こういう番組は「良くて当たり前」なんですね。そのうち、8良くて2悪かったら、2がずっと気になって、潜在意識に残ってしまうことがある。「まちのラジオ」の中で聴きづらい週があった。それが印象に残って、番組は面白いんだけど、作るほうが難しい番組だな、とつくづく思いながら聴きました。

委員：枕投げのことでちょっと辛口で言いましたが、どっこいさんは箕面で非常に有名なようで、私は知らなかったのですが、一緒に聞いていた妻が「あの人ら、めっちゃ明るい人やから」と申しておりました。分かっている人が聞くと顔が浮かんで、何も引っかけからず楽しく聞けたのかな、と。

委員：「民謡サークル」がやっている以上、ちょっとしたコメントで専門的なも

のが含まれているだとか、たとえば最期に三番叟みたいなものをしてやらせたいんですが、あれもなぜ三番叟なのか、ちょっとでも触れられることで今まで持っていた知識が広がる。そういうふうな知識の提供がもうちょっとあってもいい番組だと思います。聞いた人が引きこまれる要素がある番組づくり・内容づくりがあれば1時間面白く聞けるんじゃないかと思うのですが。

委員：「公共の電波として聞く」という場合にやはり「これは」というところが事前にチェックできる場所があるかもしれないし、逆に公共のもので、こういうところは注意してね、というマニュアル的なものがあるならば…やはり「自由に」という中でもある程度の枠は絶対あると思うので、そのあたりのことをどこまでお伝えしているのかな、というのはあります。多少ねえ…逸脱してしまう部分はあるのかもしれないし、それが良さなのかもしれませんが、「ここは」というところはあるのかもしれない。

委員：番組審議会で審議された内容は、どういう具合に伝えていらいらっしゃるのか。もちろん、ここだけで終わっているわけじゃないですよね。ダイレクトな声は聞きたいところではあるかな、と思うので、ぜひそういうことは返してもらえたら、と思います。

事務局：担当者には口頭で伝え、議事録はホームページで公開しています。担当ディレクターがこの場に出席しているので、課題を一緒に解決するため、ディレクターの責任の中で、パーソナリティの性格・性質を考えた上で、伝え方を判断しています。あと、市民のかたに対しては、それが影響して番組自体が委縮してしまうことを避けたいので、いかにモチベーションを下げないように、でもやっぱりシビアな部分は持っていたかなくてはいけないわけなので、時と場合によって伝え方は変わってきます。

委員長：そうですね。この審議会で審議されたことは、聞きっぱなしじゃなくて、終わったあと事務局のほうで意見を練りながら協議をして、番組担当者とは話し合っ、解決していただければ確かだと思います。

委員：任せっきりではだめだよ、コントロールしなきゃだめだよ、とお伝えしている委員さんは多い。じゃあそれをコントロールしながら次の番組にどう活かすかというのはディレクターのお仕事じゃないかな、と思います。

委員：人によってはストレートに言ってもらったほうが良いという人もいるだろうし、そうでない人もいるというのは僕らの仕事でもありえることなので、ディレクターさんの腕だと思います。

委員長：なるほど。同じ意見が出ましたね。「ディレクターの腕」と。何か事務局からありませんか？

事務局：お手元にお配りしました「まちの情報箱」ですが、今年の審議会で『情報紙にも番組表を入れるべき』とご提案いただきましたことを1月号で実現させました。情報紙の後ろの面にラジオ番組インフォメーションとして番組表と番組コーナーの紹介、という形式でさせていただきました。見やすくできるようにご意見もちょうだいしたいと思います。それと、もうひとつお知らせなのですが、実は番組を縮小しないとイケない状況が発生し、夕方放送を1月から辞めることになりました。また4月以降どうやって立て直していくか、みなさんのご意見も伺いながら編成を考えていきますので、ご協力お願いします。

委員：黒字になっていたんじゃないんですか？

事務局：今までの17期のうち、8期が黒字、9期が赤字。今期も赤字見込みで、箕面市から指導があり、今期はトントンに持っていき、あと2期で累積赤字を一掃するように目標を立てました。そこで、どうしてもラジオ番組を削らないとやっていけないということになりました。

委員長：そういう事情で仕方ないと言えば仕方ないのですが、聴く側としてもやはり生番組とただの音楽を流しているのでは全然違いますし、生の番組が少なくなるということで残念は残念です。いろいろ努力はたくさんなさっていただいているのですが、できるだけほかの予算を回してでも

番組に。それもただの音楽に回すんじゃなしに生で、今までどおり、今まで以上のことをしていただく努力をしていただくように。せっかくこうして聴いていただくかたも増えてきた中で、残念だな、と思いました。資金面のこともあろうかと思いますが、できるだけ努力していただいて、番組の方はできるだけ、質を落とさずにやっていただきたいと思います。これで審議会を終了します。ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 24 年 12 月 27 日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会